

# 令和7年度 奈良県租税教育推進連絡協議会会長賞

未来を繋ぐ、税の力で

天川村立天川小中学校 9年 柳谷 保乃果

「税」と言われるとどんなことを想像するだろうか。私は税に対して良いイメージはあまり持っていない。税は昔からあり、飛鳥時代から奈良時代にかけては「租・庸・調」、安土・桃山時代には「年貢」などがあることを社会で習った。その人たちは税から逃れようと、農地を捨てて逃亡したり、税のかからない僧になったりしていた。高い税に苦しめられ、厳しい生活を送っていたという印象を持っているから私は税に対して良いイメージはあまり持っていないのだと思う。私の身近でも税に関するある出来事が起きた。

私の家の前には、渡るたびに揺れ、穴がたくさん空いていて今にも壊れそうな橋がある。それは川を渡るための鉄筋でできた橋で、五十年ほど前からある。私はその橋をほぼ毎日利用しているのだが、ある時私は母に言った。

「あの橋、いつ壊れてもおかしくないくらいボロボロやで。」

母はその後、村役場に「橋が壊れそうで危ないから直してほしい」とお願いをしたそうだ。それから数か月後に役場の人が橋の様子を見に来てくれたそうだが、三年たった今でも何も始まらず、壊れそうなままだ。最近では観光客が多く、橋を利用する人も多いので、私はその橋を渡るたびに「橋が壊れて川に落ちたらどうしよう」と考えてしまう。私の村では、高齢者や子供にお金を給付する活動を行ったり、給食を無償化したりなど、村民の生活を豊かにするために積極的にいろいろなところで税金が使われている。それは村民にとって、ありがたいことだと私は思った。だが、人々の生活を豊かにすることは必要なことだけど、まずは村民が安心、安全に暮らさせることを目的としたことに優先的に税金が使われたら嬉しいと私は思う。

日本でも税金を支払っているのにも関わらず、十分な税金が医療施設や介護施設などにいきわたっていない状況であることをニュースで聞いたことがある。調べてみると日本では税金の不適切な支出が多く、二千二十四年度の不適切な支出は約六百四十八億円にも及ぶそう。六百四十八億円もの税金があれば、医療施設や介護施設などの現場がより充実するだろう。このように日本では、税金を求めている人に税金がいきわたっていない状況である。それで多くの人が困っていると思ったら、税金の無駄遣いは本当に許されないことだと思う。

国民が納めた税金は、国民が必要をしていることに第一に使われ、税の力で国民全員が不満のない、誰もが暮らしやすい世の中を未来に繋いでほしい。